

## とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年11月26日

### 1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・5歳児「秋の自然を探しにいこう」

<テーマ設定理由>

保育園が所在している近隣には団地の原っぱや霊園の自然環境、周辺の樹々など、豊かな自然があふれています。子ども達は季節の移ろいとともに変化する自然環境の不思議さ、美しさなどを見たり、触れたり、感じたりしています。小さい年齢からずっとこの環境で育ってきた子ども達は豊かな自然の中でどんな「秋」を発見するのか探究に出かけました。

### 2. 活動スケジュール

季節の深まりとともに園周辺の環境が秋の装いに変化してきたことから、散歩に出掛ける計画を立てました。毎週のように出かけて自然に触れています。まず11月21日に出かけ、続いて11月26日に出かけました。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・原っぱや霊園、団地内の広場で見つけた自然物を直ぐに調べられるように、昆虫・草花のミニ図鑑を持っていく。
- ・収集に使うビニール袋
- ・カメラで写真を撮って後で調べられるようにする。
- ・必要と子どもが考えたものを、原っぱから園に持ち運ぶ。

### 4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・霊園に散歩に行き、秋の自然を見たり触れたりするためにまずは十分に自然に触れる活動を展開した。
- ・「秋ってなんだろう」という問いを基に。子ども達は自然の中で空を探し始める。落ちている枝、落ち葉、まつぼっくり、どんぐり、木の実などを拾っていた
- ・落ち葉の色や形に気付き、友達や保育士に教え合っている。「みんなで、見つけた物は何かな？」と尋ねると、得意げな表情で自分が見つけたものを話している。
- ・友達が見つけたのものに対して、「それ、いいねえ」と担任が答えると、同じようなものを探している。または、違うものを見つけようとする。
- ・気になったもの、大切にしたいものは園に持ち帰る。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・幹の穴や草むらをのぞき込んで、「ここに何かいるかな?」「ここにどんぐりあったよね」「こっちにあったよ」など、気づきを言葉にし合いながら、お互いに伝え合っている。
- ・二人・三人でしゃがみ込み、同じ場所を見つめている。「これ同じ形だよ」「こっちの方が大きいよ」と比べたり、「見て見て!」と発見を伝えて相手の反応を楽しんでいる。
- ・落ち葉を集める場面では、「袋持ってて」「私が拾うね」など自然な役割分担が生まれていた。
- ・「こんなに集まったよ」「あとここにあるよ」と成果を見せ合いながら協力している。
- ・道端や駐車場付近では、「こんなところにあった」「黄色いじゅうたんだ」と素直な思いで発見した喜びや驚きを表現している。子どもなりの発想力の豊かさ素晴らしさを感じた瞬間だった。年長児らしい言葉が交わされている。
- ・夢中で拾い集める、友達が探す様子を見て動き出す子どもなど様々な様子が見られる。一人だけで探索する子ども、誰かが何かを見つけると興味を持つ子どもも多かった。
- ・「私は黄色が好き」「〇〇ちゃんは茶色の葉っぱ集めてるね」と、お互いの好みやこだわりを言葉にし合い、違いを受け止め合っている。
- ・「これ明日、製作で使えるかな」「お部屋に飾ろうよ」「ママに見せる」など、集めた自然物をどう遊びに生かすか話し合いながら、イメージを膨らませて次の活動につなげようとしている。
- ・たくさんの落ち葉に囲まれた場面では、「ふわふわして気持ちいい」「カサカサって音するね」と感触や音への感動を伝え合い、共感の笑顔が交わされている。
- ・田差しを「今日はあったかいね」と季節の移り変わりについて話題にしている。



### 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・歩きながら周囲を見回したり、立ち止まって木や地面をじっと見る姿から、「どこに秋があるかな?」と自分で問いをもって探索している。
- ・幹の穴や草むら、フェンスの向こうなど「ちょっと見えにくい場所」を覗き込む様子からも何かを探そうとしている姿が面白いと感じる。「隠れているものも見てみたい」という好奇心と観察力の深まりが見える。
- ・落ち葉を袋に集めたり、友だちと同じ場所でしゃがんで何かを見ている姿から、「お気に入りの葉っぱ」「面白い形」など自分なりの価値づけをしながら、友だちと発見を共有しようとする気持ちや言葉で伝えあう姿が感じられる。
- ・広い原っぱでそれぞれ気になる場所へ向かったり、ペア・小グループで動いている姿から、年長児として「自分で行き先や活動を選ぶ」という主体性と協同性が育っている。
- ・日頃から同じコースを散歩し、四季の変化を見続けてきた積み重ねがあることで、子どもたち自身が「今年は葉っぱがたくさん」「ここに虫がいるかも」など見通しをもって探し始めていることに気づける。
- ・保育者が「ここを見るよ」と場所を限定しすぎず、安全を確保しながら広い範囲を任せていることで、子どもが自分で歩幅や視点を決められていることに改めて気づき、環境を信じて任せることの大切さを実感できる。
- ・しゃがんでじっくり見る子・走りながら集める子など、秋との関わり方にも個性が表れているため、「同じ目的の活動でも、一人一人のペースや興味に合わせた関わりが必要だ」と再確認した。
- ・拾った落ち葉やどんぐりを園に持ち帰って遊びや製作に生かすことで、今後の保育（素材の準備、言葉かけの工夫、記録の仕方）につながっていく。
- ・自分たちで見つけたもの、発見したものだからこそ想像力豊かな制作活動に展開できるのではないか。